

宝塚の会ニュース

665-0025 宝塚市ゆずり葉台 2-8-19 田中方 Tel: 0797-74-6091 郵便振替 01150-8-61089

原発の危険性を考える つどい

福島原発事故を忘れてかけていませんか？

何度でも振り返って、考えよう

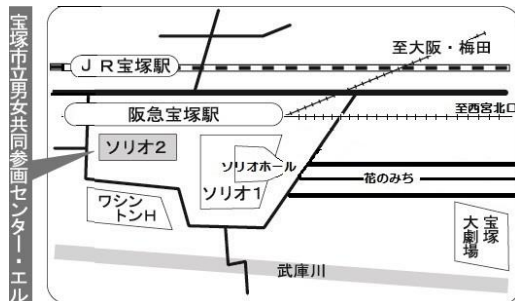
2024年2月4日(日) 14:00~16:30

宝塚市立男女共同参画センター 3・4

(阪急・JR宝塚駅下車 ソリオ2 4F)

お 話: 竹本 菊郎さん (REPTオブザーバー)

参加費: 300 円



* 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 * 🎅 *

元日に能登半島で大地震発生。なんという年明けでしょうか。先達の活動のおかげで珠洲原発建設が阻まれていて本当によかった、と思う一方、志賀原発の情報は錯綜し、破損や故障の後出し訂正が続出。外部電源のトラブルには、福島事故の電源喪失が彷彿とされ…ヒヤリとしました。

この状況に、私たち GENKI の会はますます脱原発しかないという思いを強くしています。

しかし、政府は昨年5月に GX 法案(原発関連まとめ法案)を成立させ、原発推進に舵を切りました。その上、先月の COP28 では、温暖化防止のため原発を3倍にするとしました。福井の老朽原発の稼働は止まらない。私たちには納得できないことばかりです。

絶え間なく大きな問題が起こり、報道が上滑りしている社会では、新しい出来事だけが注目され、古い事件はそれらに上書きされて消えてゆく。人々の記憶もキャパオーバーと諦めのせいか、大きな問題から目を背け、重大事が忘却の塵に埋もれてしまっています。

もちろん、GENKI の会員は福島原発の事故を忘れる訳がない。でも、やっぱり限られた時間で取組みを進めていく中で、福島が少し遠くなっていることも否定はできないかと思うのです。

11 月の<つどい>では福井のこれまでと現状を若狭町の石地さんに話していただきました。今回の<つどい>で福島事故をもう一度振り返るには…と考えていたところ、《新エネルギーをすすめる宝塚の会》のオブザーバー竹本さんが事故後数回に亘って福島に調査に入られたことを知りました。竹本さんは「原発の専門家ではないが、現地で見聞きしたことを率直に話すのでよければ」と講師を引き受けてくださり、「みんなで考え話し合う機会にできたら」ともおっしゃっています。前回は原発を「自分事」として捉えるには?という話合いが十分に出来なかったこともあり、今回は参加者の発言時間をたっぷり取りたいと思っています。

寒い時期ですが、みなさま誘い合わせてご参加ください! そして、ドンドンご発言を! (あ)

福井県原発は関西の私たちの問題です 福井の声を聞こう

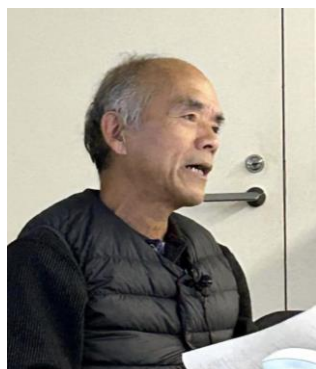
11・25 石地優さん講演報告

元日、能登半島沖で M7.6 の地震発生。志賀原発は停止中（でも危険）だが、福井の原発は5機稼働中「大丈夫だろうか？」 原発がある限り事故の心配が一番に来る。でも、関西の私たちには多少の距離のある不安だが、福井県嶺南地域に住む人々にとっては身に迫る危機なのだ。

昨年秋に福井県で活動が続けられる石地優さんをお招きし、原発建設の経過や幾多の事故、反原発運動の歴史、そして福井の方々の思いを語っていただいたのは、たとえ地震が起きなくても、福井県の原発について関西の私たちがもっと自分事として考えなくては！の気持ちからだった。

石地さんはまず、原発事故が起こったら福井の住民は避難先として兵庫県に受け入れてもらうことになっていると話し始められた。そして、福井の原発の起源に話を進めた。'55年に原子力原子力基本法が制定され、'57年に福井県が「原子力懇談会」を設置し、県主導で候補地が決まり、'65年に敦賀原発建設が承認され、'66年には美浜原発の承認。'70年敦賀1号と美浜1号が営業運転を開始し、大阪万博に送電。以後原発建設は続き、発電した電気は全て関西へ送電された。

続いて、原発事故に言及し、福井県内だけでも、'73年：美浜1号で燃料棒折損（3年半隠匿）、



'81年：敦賀原発高レベル廃液が一般排水路へ漏洩、'91年：美浜2号の蒸気細管破断（緊急炉心冷却装置作動）、'95年：高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏れ火災事故、'04年美浜3号二次系配管蒸気噴出死傷事故など、原発が稼働し始めてすぐに事故が起ったことを示した。

この間、世界や日本で、'79年：スリーマイル島原発、'86年：チェルノブイリ原発、'99年：東海村 JCO、'11年：東電福島第一原発と、次々に重大事故が発生。

そうした原発の歴史に沿って、石地さんはご自身の脱原発活動について話された。70年代後半から原発の講演会や集会に出向き、'79年のスリーマイル島原発事故を機に仲間と原発反対の行動を開始した。それからは、戸別訪問で、チラシ配りやアンケートや署名集めなど何かしらを持参して、「対話」をする形で見知らぬ人々の意見聞き取りを行ってきたとのこと。スリーマイル島事故以前から原発について学び、事故後行動に結びつけられた石地さんの今の活動につながる思いの深さと住民に向き合う姿勢にあらためて感服した。

90年代福井では「敦賀3・4号増設反対」と「もんじゅを2度と動かすな」署名を展開、労組の協力や街頭行動（関西からも参加）などで2度とも福井県民20万人の署名を集めた。

福島事故のあとは、「放射能寺小屋」「巡回カフェ」と称し、県内各地で座談会を開いた。必ずしも原発をテーマにした訳ではないが、いつも原発の話が出た。以前は原発の林立する嶺南地域が活動の中心であったが、福島事故は嶺北の人が原発への関心を高める契機となり、交流が広がった。

もちろん原発の情報を広め住民の意識喚起を図る活動だけでなく、石地さんは裁判の原告や事務担当として多くの裁判に関わり（2度の勝訴）、請願や陳情を提出し議会傍聴などして県や立地自治体への働きかけや、原発の門前やPR館前での抗議行動や町内デモ、避難計画に関して住民の認知度調査や行政の姿勢を問う活動など、ありとあらゆる活動を展開し八面六臂の活躍ぶりである。時々、農作業の話が出るのですが、一体いつ農業をやってられるのかしらん？

こうして福井での活動を地道に続けてこられているが、国や県は福島事故後の原発を減らそうという方針を臆面もなく変換し、推進に大きく舵を切っているのが現状だ。国はGX脱炭素電源法の成立により、原子力の活用を「国の責務」とし、お金も知恵も国が全部出す、儲からなくてもやり続ける、国が後押しするという意志を示した。福井県は、これまで原発は容認するも、使用済燃料

の県外搬出を強く主張し続けていた（その元々の意図は電力消費地が原発について考えてほしいというものであった）が、関電が中間貯蔵施設適地を決められなくとも老朽原発の再稼働を受け入れ、原発敷地内に乾式貯蔵の計画まで認めてしまった。

「若狭は日本で一番多くの原発が稼働し、日本で一番古い原発が稼働し、日本で一番大事故に会う道をまっしぐらに進んでいる」と、石地さんは強調された。

福井はこの間、特に若狭地域の農林漁業が衰退し、製造業も低迷している。原発で働く人が多くなり、地域経済が原発中心になってしまった。そのせいで、率直にもの言えない雰囲気当たり前となり、原発の話はタブーとなっている。また、甲状腺がんなどの発病率なども高いという調査もある。原発を受け入れて半世紀、嶺南は人口減が厳しく、果たして原発でよくなったかは大いに疑問と言われる。石地さんは、「今、若狭は原発下にあると思います。（ちなみに、）沖縄は基地下、福島は事故下、ウクライナやパレスチナは戦時下）若狭が事故下や戦時下にならないように、平和下であってほしいと思っています」と述べ、「福井県の県庁所在地である福井市より京都市の方が原発から近い。また、琵琶湖は関西の水がめ。原発は他人事ではなく、関西の方々も自分事として考えてみて、傍観者ではなくできることをやってほしい」と結ばれた。

何であれ「自分事」として考えるのは難しいし、できれば面倒なことには触れたくないというのが本音だろう。でも、今回 45 年以上も反原発運動を続けてこられた石地さんの誠実なお人柄に接し、「福井の声」を聞くことで、私たちも一緒に「原発下」にいると気づき、軍備拡大の動きによって「戦時下」に近づいているのを自覚した。福井の問題は決して福井特有のものではない。実は本当に大切な農林漁業を蔑ろにして、虚業と言ってもよいような産業に重点を置いているのは、都市に住む私たちも同じことなのではないかしら？ 経済の衰退も人口減や高齢化も同様に進行している。私たちの現在と福井の現在は重なり合っていることに改めて思いを致すことで、原発を「自分事」として考えることにつながるのでは？と思った。

（たなか）

参加者の感想

（アンケート抜粋）

＊ 久しぶりの原発学習会に参加させていただき、原発の歴史をふり振り返りあらためて人類の愚かさを考えさせられました。原発



を動かす事によりどうしようもない核のゴミを生み出す事を！ チェルノブイリ、福島事故でふるさとに帰れない人たちが沢山いる事を！ 次世代に負の遺産を押しつける事を！！

＊ 断片的には知っていたり聞いたりしていたことを時系列で説明していただき、改めて原発の問題点や行政（政治）の動きへの理解ができた。忘れず、あきらめず、学習をして、1 つでも自分のできることをやっていこうと思いました。

＊ 地元で活動しておられる方の生の声が聞けてよかった。電力を使用している、当たり前。でも地元の方々には事故になったらの不安をかかえた暮らしをしている。家では省エネに努めているが、原発に頼らないようにするにはもっと再生可能エネルギーを推進していかないと。税金の使い方にもっと目をつけていく。

＊ 今日はとても具体的なお話で、どうやって自分が活動したらよいかも話してもらえたように思えました。自分の町で活動していく大切さを感じます。今日は本当にありがとうございました。

さようなら原発 1000 人集会

ー2023.11.12 いたみホール

福島原発事故による避難や被害を被った人たちによる裁判が全国でなされている。その中の一つ、原発賠償ひょうご訴訟の弁護団で副団長を務めておられる津久井進氏の話聞いた。

この訴訟の事務局が発行しているくぼかぼか通信>にはこう書いてある。

この訴訟は福島原発事故で「あたり前の日常」が破壊された被害者が、完全賠償だけでなく医療措置を含めた十分な恒久的補償制度を確立させ、「避難する権利」を勝ち取り、東電の過失責任とそれを放置してきた国の責任を明確にすることを通じて、同じような惨事を繰り返さない「子どもたちの未来」を取り戻すことを求めている。現在 31 世帯 84 人が原告になっている。

日本全国での訴訟は 32 件、原告数は 12,000 人以上。集会で配られたレジュメには全国の訴訟一覧が 2 ページにわたってぎっしりとまとめてあり、津久井氏は家で虫眼鏡で読んで下さいと言っていたが、それほど、多くの訴訟があちこちでなされていることが分かった。事故がなければこんな訴訟をせずに済んだものをと裁判で戦っておられる人を思うとつらくなる。

ひょうご訴訟が注力した論点は

- ① 国の責任を認めさせる
- ② 低線量被爆の（内部被ばく）の危険性→避難の相当性（被ばくを避ける権利の保障）
- ③ 区域の内外にとられない過酷な被害→あるがままの事実を認めさせる

これらの一つ一つ、全てあたり前の主張に耳を傾けない裁判官は何をしているのだろう。津久井氏は裁判長宛にはがきを送る運動も展開している。「あなたが書く判決を皆が見てますよ」と伝えたいと訴えていた。

次にジャーナリストの金平茂紀氏が登壇し、今は新しい戦前の状態であるという話から始まった。成長神話にしがみついているが、医療、福祉も含め様々なことがだめになっている。大阪万博の推進が典型。安倍首相暗殺がもたらしたものは、故人の神格化と統一教会問題の幕引きと述べた。確かに暗殺されたことで、統一教会という存在を世間に知らしめることになったが、現在の結果としては、巧みに幕引きが謀られようとしている。多くの議員が統一教会と関係があったことがわかったが、それでも今なお、変わりなく議員をしていて、細田氏などは何も説明しないまま亡くなってしまった。自民党と統一教会があれほど癒着して、票集めをしていた事実がわかっても議員は辞職もせず政権の中枢にいる。

原発回帰については、原発カムのペンタゴン（5 角形）《政権と官僚⇄学者⇄マスコミ⇄産業⇄自治体》の結びつきが強くなり、福島事故を経てもなおこの 5 角形が日本を悪い方へ悪い方へと導いていると述べた。

汚染水排出問題の「汚染水」を「処理水」と呼ぶように決めたのは経産省の記者クラブでのことという金平氏の発言に、記者クラブというのは本当に御用記者の集合で、こんな人たちは記者と呼べないと思った。様々な記者会見の様子を見てみると、くらいついても質問をし続けるとか反論をする記者のなんと少ない（いや、いないか）こと。ひたすら言われたことをメモするだけでは速記者と同じではないのか。

2022 年 6 月 17 日 福島事故の被害者が提訴した生業訴訟、群馬訴訟、千葉訴訟、愛媛訴訟において国が規制制限を行使しなかったことについて国の責任を認めないと最高裁は判決を下したが、この裁判の菅野博之裁判長は、のちに退官して東京電力の弁護士になったという呆れた現実。しかし、社会全体が見ないふりで来てしまったこと（ジャニーズの性加害問題も同

様だが）こそが問題だと金平氏は言う。

そして原発問題で追及しなければならないのが、御用学者の跋扈。科学者だけでなく、放射能汚染についてふれる社会学者に対して、そういう発言は風評被害を助長するとバッシングされる。2009年に死去したミュージシャンの忌野清志郎氏は生前金平氏の出演するTBSラジオ番組で「なんでこんなに言いたいことが言えない日本になってしまったんだ」と嘆いていたが、今はその時よりひどくなっている。まさに戦前的な兆候だ。しかし、この世界にはいろいろな抵抗や意思表示の仕方がある。運動はユーモアと余裕を持ちながら、心の中まで制圧されないぞというレジスタンスの精神でやっていこうと、ウクライナへ行った時に入手したプーチンの顔のトイレットペーパーを見せながら締めくくった。

「かくれキニシタン」「三権連立」 子ども脱被ばく裁判原告代表 今野寿美雄さんの言葉

子ども脱被ばく裁判の原告代表の今野寿美雄さんの話を聞く機会があった。3.11 までは原発でエンジニアをやっていて、福島事故が起きた日は女川原発の中にいて、仕事をしていた。事故が起きた時、電力会社同士は衛星電話で話が出来たが、一般の電話は使えず家族のことが心配だった。そのうちに女川原発の中にいる方が安全ということで、周辺の人が女川原発内に避難してきた。

事故後、原発の仕事を辞め、震災のガイドをして伝える仕事をしている。国が作った原発事故の伝承館に対抗して「おれたちの伝承館」を作った。（南相馬市にあり、入館には連絡が必要 「おれたちの伝承館」で検索して下さい。）保養キャンプにも関わっているが、参加するお母さんたちは保養先では放射能汚染の心配の話をするが、その時に異口同音に「こんな心配な気持ちは身近な友達や近所で言えなかった。言えば『変な気にしすぎている人』と言われる。私達は『かくれキニシタン』だよ」この言葉を聞いて、今野さんはこのことを映画にした。他に、助けられずの命を福島事故発生のため助けられなかった消防団の気持ちを描いた「無念」の映画、また、我が子のように育てた牛を殺処分しなければならなかった「浪江ちち牛物語」（アニメ）も多くの人に見てほしいとのこと。

子ども脱被ばく裁判は国と県が被告。子ども達は何も守られることなく被ばくさせられてきた。裁判をやっていると思うのは、日本の制度は「三権分立」だと思ってきたが、「三権連立」だ。どこまで裁判所は国寄りなのかと思う。今野さんの周辺では、亡くなる人が増えていて、地震の時の死亡者より、震災関連死の方が増えているのではと思うが、解明できないままである。DNA の中にある鎖は放射能で被ばくすると、1本だけの破壊なら修復できるが、2本になると修復しない。このため病気はその人の弱いところに発症する。3.11 までは福島では電気を生み出していたが、3.11 以後は悲しみしか生み出していない。

今野さんが関わっている子ども脱被ばく裁判「親子裁判」で、12月18日仙台高裁は控訴棄却した。この裁判では無用に被ばくさせられた福島県の親子は、事故発生当時正しい情報が与えられたかどうかを訴えた。「山下俊一の数々のウソ。スピーディーを正しく公表しなかった。安定ヨウ素剤を飲ませなかった。20 ミリシーベルトの環境下で授業を再開した」弁護団は国際的基準を挙げながら立証したが、結果は不当判決。次は最高裁へ上告する。

福島事故がなければ被ばくしなくてすんだこと！ここでもう一度、数字的に触れておきたいのが、通常 15 歳以下の小児甲状腺がんの発症率は 100 万人に対して年に 1 人～2 人。一方、福島の甲状腺がんの検査で見つかった数は 300 人以上。被ばくのこわさを誰もが今一度考え、原発がそれをもたらしたと、何度でも何度でも言い続けなければならない。（辰野純子）

関電に関わる三つの訴訟・カルテル問題など ―関電が抱える問題をまとめると―

関西電力ってどんな会社だった？

あけましておめでとうございます。私は今 70 歳 関西電力という社名を意識したのは、幾多の困難と 171 名の犠牲の上に完成した黒部第四ダムを描いた 1968 年の映画「黒部の太陽」を観てからで、関西電力の管内であることを誇らしく思っていました。一方、私の親は関電を「関西配電」と呼んでいました。1942 年から 51 年に関西電力に改組されるまで、近畿圏の送電会社 14 社を統合した配電会社で、国策発電会社の日本発送電と事業分掌していました。その時点から福井県的美浜町から西の若狭地方も関西配電が管轄。株式は大阪市、神戸市、京都市で 48%、関西の私鉄各社が 10%を保有しています。1951 年 5 月に電気事業再編政令により解散した上で、同じく解体分割された日本発送電の発電事業も受け継ぎ、近畿圏の発・送・配電事業を担う現在の関西電力の姿になりました。ちなみに電力用の水利権は 1 河川 1 社主義とされ、黒部川本流は関西電力の管轄と定められました。

「もしも」の話と、関電の誇るべき歴史と対をなす裏方事業について

成り行きで関電の管轄となった北陸の若狭地方ですが、もし近畿圏だけが管轄だったら関電はどこに原発を作ろうとしたでしょう？ これは原発の立地を自分事として考える上で大切なポイントです。水力発電の比率が高く電力料金を低く維持してきた北陸電力との比較も興味が生れます。その関電はダム建設で水没する集落の説得、火力発電所の土地取得や公害対策、送電線や電柱の用地取得や用地賃貸借など、膨大な土地売買や賃貸借契約と紛争協議などを抱えています。電気事業の公共性という表の顔と対になった影の業務が必要とされ、これらの事情で大阪地検 OB を取り込むことが社是とされてきたのでしょうか。

多額の金品授受など関電の悪行に対する責任追及と真相解明を求める三つの裁判

- ① **会社訴訟** **原告**：関電・株主 **被告**：八木元会長、岩根元社長、豊松元副社長、白井元取締役、森元会長、八嶋元取締役の 6 名
争点：金品受領、事前発注約束等の不正、社内調査の非公表、役員報酬の闇補填、追加納税分の闇補填、取締役会への非報告、監査役会への非報告
- ② **株主訴訟（金品還流）** **原告**：株主 **被告**：森中、森本、弥園元取締役、佐々木元監査役等 17 名
争点：事前発注約束等の不正、取締役会への非報告、監査役会への非報告
- ③ **株主訴訟（土砂処分等）** **原告**：株主 **被告**：森元会長、八木元会長、豊松元副社長、森中取締役、森本元取締役の 5 名
争点：土砂処分、土地賃借、倉庫賃借の高値発注

土砂処分等不正高値発注、高値賃借にかかる民事訴訟 第一回口頭弁論

12月8日これまでに提出された書証や証拠を正式に受け付ける手続きが行われた後、「株主の権利弁護団」に所属する富田弁護士が土砂処分問題、前川弁護士が土地賃借問題、塚田弁護士が倉庫賃借問題訴状の説明を行いました。関電は吉田開発へ原発工事土砂処分発注につき、法外な高値 61 億円で発注し、吉田開発は謝礼で 3 億円を森山元助役に、森山氏は関電役員に 3 億 6 千万を提供した。必要性の希薄な土地を相場なら 50 万円/月なのに 120 万円という高値で賃借した。原発推進有力者 A 氏支援の目的で A 氏の倉庫を 3 億 5 千万の賃料差額の賃借契約を締結した。など訴状解説をしました。弁護に加わった「株主の権利弁護団」は、企業不祥事の追及をする株主代表訴訟をこれまでにいくつも手掛けており、さらに強力な陣容になっています。

「関電の原発マネー不正還流を告発する会」の解散と今後

関電の役員たちが3億 6 千万円もの金品小判お仕立券などを受領していたことが明らかになったのが2019年9月で翌10月にこの会が結成されました。関電は「不適切ではあるが違法ではない」と言い張り、旧態依然とした関電の体質を露呈させました。コンプライアンスとは「法令順守」ではなく「社会の要請に応えること」なのに。「森山氏（高浜町元助役）が怖かった」と頭を下げながら繰り返した八木誠元会長、岩根茂樹元社長。ことの露見により減額された役員の報酬・追徴金の補填や社内調査結果を非公表とする決定をし、取締役会、監査役会にも報告しませんでした。この時点で企業として失格です。そもそも一介の町助役が3億 6 千万円もの金品を自由に関電役員にばらまいた原資はどこから生まれたのか。原発の立地対策や事故が起きた際の運転継続のために巨額の黒いお金が頻繁にやり取りされていたことの表れだと思うとともに、露見していない更に大きな闇金の存在を感じずにはおれません。このお金は全て電気代から出ています。

本件に関し大阪地検は不起訴を決定しましたが、1338名が検察審査会に申し立てをし「起訴相当」「不起訴不当」と議決されたにもかかわらず、大阪地検により再び不起訴とされ、不起訴理由の具体説明もありませんでした。これらはひとえに地検OBを役員に抱えた関電と大阪地検の癒着によってもたらされたと言えるでしょう。2023年10月27日、倉庫賃借事件について検察審査会から「不起訴相当」との議決が届きました。これですべての刑事責任追及の扉が閉ざされてしまい、これにより一連の不正に刑事事件として戦う方法が無くなり、12月8日の口頭弁論報告会の後で開催された総会で本会を解散することになりました。

- ① 当会は刑事責任の追及が終了したので解散する
 - ② 関電の元経営者の責任追及は継続することとし、株主代表訴訟原告団による運動に移行する
 - ③ これまでの会員からの会費やカンパは株主代表訴訟原告団に引き継ぐ
- の3点を今後の方針として総会決議し、関電追及の運動を続けることを確認しました。

第四訴訟 電力カルテル4社を株主が提訴 首謀の関電に対し3508億2600万円！

2023年10月12日関西電力の新旧取締役に対し株主26名が民事訴訟を起こしました。

電力自由化で顧客獲得競争に陥り、2017年秋頃から電気の販売料金が低下しはじめ、隣接電力会社から営業浸食され、関電も近畿エリア外営業を展開しました。2018年10月頃、関電は戦略会議で競争を縮小する方針を決め、上記3社にカルテルを持ち掛けました。カルテルを持ち掛けたのは関電なのに、外部からの指摘を受け、2020年10月29日公取委へ事件の事前申告をした結果、減免制度が適用されて関電に対する課徴金はゼロでした。公正取引委員会は本件カルテルに関し合計約1010億円もの課徴金納付命令を関電以外の3社に下しています。納得がいかない中部電力など3社は、それぞれ公取委を相手取って処分の取り消しを求める訴訟を提起しています。

電力業界内では事の経緯に不協和音が起こりましたが、それは“改心”した関電の想定内ではなかったのでしょうか。そこへ関電の株主が新旧取締役12人を相手取り、3508億円を連帯して関電に支払うよう求める株主代表訴訟を起こしたのです。請求額は中部電、九電、中国電でも同時に起こされた株主代表訴訟（請求額28億～707億円）と比べ、飛び抜けた数字です。

自主申告で課徴金免除された関電に、3508億円の支払いを求める株主代表訴訟を起こした根拠は、社内調査に1億円、官公庁による行政処分で失うことになった利益100億円、そしてこのカルテルによって高値で電気を購入させられた大口顧客、相対顧客、官公庁が被った損害に対する賠償債務が少なくとも3407億2600万円で合計3508億円と算定した結果です。（馬場）

お詫びと訂正

〔GENKIの会ニュースNo.238〕関電カルテル裁判報告に、賠償額を3億5千万円余としていました（P.8）が、3508億円余の間違いでした。申し訳ありません。訂正いたします。（田中あ）

憲法の持つ力を再確認し、日本を戦争する国にさせない！

ー23.12.17 高良鉄美（たからてつみ）氏講演

元旦に能登半島を襲った地震。被災地の状況を伝えるニュースは見えていてとてもつらい。しかし、それ以上に情けないのは、国の動きのなさだ。避難所に多くの人が身を寄せる事態になっているのに物資が足りない。税金はどこに使われているのかと腹立たしく思う。首相の防災服姿は白々しく、1月5日には経済界との新年会に行ったという報道に、こんな人が国のリーダーでいい筈がないと思ったのは私だけではないと思う。参議院議員の高良鉄美氏の話聞く機会が年末にあって、しみじみ思ったのは国会議員は何をする人なのかということだ。年末からのパーティ券裏金問題であぶり出されたのは、自民党議員がやっているのは選挙の票集めのための資金稼ぎに奔走していることだった。国の行く末を議論し、あるべき方向性に導くのが国会議員ではないのか。日本国憲法を柱に国民の暮らしを良くすることを考えるのが国会議員ではないのか。高良氏が主張する平和のあり方を聞いた時、この人のような議員がもっといたら日本も変わるのではと思った。そのためには次の選挙まで、国民が自民党の今回の問題を決して忘れず、自分の1票の重みを考え投票することだ。

高良鉄美氏は沖縄選出で所属会派は「沖縄の風」。琉球大学で教鞭をとった後、2019年から参議院議員になった。この日の演題は「日本の軍事力強化、憲法改悪を許さない」。話の冒頭の映像は与那国島での自衛隊の巨大な戦車の姿。次いで宮古島の自衛隊配備計画と重要施設の図が示された。島民が配備計画についての説明会を開くよう要求したが答えはなかったとのこと。宮古島の港は巨大空母の接岸が可能になり、射撃訓練場、弾薬庫などの計画がある。そこはずっと島民が暮らしてきたところ、なのに今は盆踊りが行われる時に同時に自衛隊のパレードが行われている。奄美大島、沖縄本島、宮古島、石垣島、与那国島あらゆるところにミサイル基地が整備されている。ここで話は先の大戦の事に移り、高良氏は沖縄戦は国の中枢や国益を守るため時間稼ぎだったと述べた。大戦を終わらせるためのチャンスが3回あったのに、それを逃したため被害は甚大になった。1つ目のチャンスは1945年2月14日、近衛文麿は天皇に早期講和を上奏したが、当時は三国同盟があり単独に講和できない、軍はやる気があり、あともう少し戦えば勝つと思っていた。ここで講和をしていれば東京を始めとする空襲の悲劇はなかった。2つ目は1945年5月8日、ドイツも降伏し、三国同盟の縛りもなくなったのに軍はまだ引き延ばした。ここで降伏していれば沖縄戦の悲劇は避けられた。そして3つ目は7月26日にポツダム宣言がなされたが軍部は黙殺の声明を出した。結果、広島、長崎に原爆が落とされた。

敗戦までの経緯の説明のあと、高良氏は憲法の前文「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」に触れた。この前文の「全世界の国民が～」の文言があるなら、国会が「ウクライナとともにあり」という決議をするのはおかしいと高良氏は決議を棄権した。欧米とは違う立場で独自に平和的解決を求める積極的な外交を行うべきとの気持ちだった。ロシアが侵略したことは非難されるべきだが、その一方で日本の南西諸島でのミサイル配備や基地建設をどう見るのか。9条外交はどうなるのか。高良氏はさらにヒトラーの右腕だったヘルマン・ゲーリングの言葉を引用し、警告を発した。「普通の市民は戦争が嫌いだが、国民は常に指導者たちの意のままになるもので、自分たちが外国から攻撃されていると説明するだけでよい。平和主義者については彼らには愛国心がなく、国家を危険にさらす人々だと公然と非難すればいいだけのことだ。」

確かに今の日本の状況はこのゲーリングの言葉の上で暮らしている。それに対してどれだけ

の人が本気で抵抗しているだろうか。高良氏は後半の質疑応答の時に、日本の取るべき姿として「あおる」のではなく、その逆をと述べ、国民の命を守るからと防衛費を上げ、軍事関係に進むのは逆に国民の命を守らないことだ。今戦争が起きたら沖縄は1時間で全てなくなってしまう。一旦インフラが崩れたらそこで経済がなくなる。私達は今こんな危ういところにいる。

先日のオスプレイ墜落問題から日米地位協定の問題に触れ、米軍への対処は敗戦国イタリア、ドイツは対等な関係にあるのに、日本は対等になっていず、米国に対して何も言わないまま今に至っている。また、今の国会議員は9条を始めとする憲法がどうやってできたかを理解していない、それ以前に憲法そのものに無知な議員が多いということも指摘した。

こうした指摘に暗澹たる気持ちになったが、沖縄では戦争の事などもっと知りたいと言ってくる若者が集会に来ているという高良氏の言葉はわずかだが希望だと思った。憲法の持つ力を再確認し、諦めず伝えていこう。

辺野古代執行！—軟弱地盤に杭を打ってでも造る政府のやり方！ひどすぎる！

昨年の年末12月28日、国は埋め立てに必要な設計変更を県に代わり承認する「代執行」をした。玉城知事は「国家権力によって知事の権限を一方的に奪うことは、多くの県民の民意を踏みにじり、憲法で定められた地方自治の本旨をないがしろにするものだ」と批判した。

12月18日の新聞には「軍事的有用性」「コスト」「環境負荷」の観点から検証すると巨大事業の合理性の乏しさが浮かび上がるとあった。在沖縄米軍幹部は滑走路の短さや費用と工期が未定で、辺野古基地の運用性は限定的だと言う。マヨネーズ状と言われる軟弱地盤対策の工費は当初の見込みより2.7倍に膨らみ9300億円となり、なお増える見込みだ。埋め立て予定の大浦湾は絶滅危惧種が生息する生物多様性の宝庫。環境を破壊し、米軍が疑問視する移設計画に莫大な税金が投入される。なんということか！玉城知事は国との対話を求めているが、国は普天間の負担を減らすにはこれしかないとの文言を繰り返すばかりだ。このままでいい筈がない！

（辰野純子）

カヌーで示す民意 自然遺産辺野古の海を守れ！

五年前の12月14日辺野古に最初の土砂が投入されたこの日、カヌーに乗り抗議した。国会で「赤土ではないか」との指摘に関係者は赤土ではないと反論。搬出港に運ばれる土砂は誰が見ても沖縄特有の赤土だ。粘土交じりの赤土は廃棄費用が掛かる。設計指定は赤土を含まない土砂（岩ズリ）



単価 5,370 円/㎡で運送費が 5920 円/㎡とされている。指定通りの土砂に代えて赤土を使えば差引き大きな儲けが出る。こんな大盤振る舞いに業者は大喜び。粘土交じりの土砂で海は濁る。工事海域は汚濁防止のための汚濁防止膜が張られ、オレンジ色のフロートに吊り下げられている。私たちはフロートを超える抗議で海保に拘束される。拘束根拠は安全確保のためか日米地位協定のせいか、彼らに聞いても明確な回答は無い。曖昧なまま抗議と拘束が5年続いてきた。沖縄の人々は抗議スローガンに「争うよりも愛しなさい」と掲げている。

攻撃基地建設に NO！ 世界遺産を守り近隣諸国との懸け橋づくりに投資を！ （馬場）



*



お知らせ

*



*

- * お米が危ない 放射線育種って？ オンライン講座
1/19（金）14:00～16:00 申込み：日本消費者連盟HP <https://nishoren.net/>
主催：日本消費者連盟 030-5155-4765（月水金）
- * 私たちが避難をした理由 ～もう1度内部被ばくのことを考える～
1/20（土）14:00～ 尼崎市女性センタートレピエ（阪急武庫之荘）
主催：原発賠償ひょうご訴訟団 080-1458-5327

第38回 2.11 ぶっとばせ軍国風・宝塚集会

自衛隊基地建設が進む馬毛島・・・種子島からの悲痛な訴え・・・そして 抵抗運動へ・・・

講師：和田かおりさん（戦争をさせない種子島の会・前西之表市議）

2/11（日）14:00～16:00 日本基督教団 宝塚教会 1F 集会室（阪急逆瀬川駅）

Zoom 申込み：akikkoskmtnk@nifty.com

主催：第38回 2.11 ぶっとばせ軍国風・宝塚集会実行委員会 0797-74-6091

- * 地球・生命体を守るため汚染水の海洋放出を止めさせよう！！
2/18（日）13:30～16:30 リード芦屋（阪神芦屋駅北）
主催：原発をなくそう芦屋連絡会 070-5669-5875
- * 大阪・関西万博を考える第2回「環境」
「SDGs 万博」の欺瞞を暴くー自然と人間の新たな転換に向けてー
2/25（日）15:00～17:00 日本基督教団 宝塚教会（阪急逆瀬川）
主催：日本基督教団 宝塚教会 0797-71-2314

ご予約ください！（詳細はお問合せください）

- * さよなら原発関西アクション
3/10（日）集会：14:00～15:20 中之島公園 集会終了後、西梅田へデモ
主催：さよなら原発関西アクション実行委員会 問合せ：0797-74-6091
- * 映画「祝の島」上映会
3/24（日）13:30～16:30（開場 13:10）神戸市婦人会館 さくら
主催：上関に原子力施設はいらない兵庫の会 問合せ：0797-74-6091
- * チェルノブイリ原発事故 38 年の集い
4/21（日）13:30～16:30 ドーンセンター 4F 第3大会議室
主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 問合せ：0797-74-6091